

## はじめに

必要な時に、必要な場所が与えられ、人と出会い、学び、言葉を紡いでこられたことに感謝しています。

今回は舞台を屋久島から都会の片隅に移し、「ヒプノセラピー（催眠療法）」による前世療法について書く御縁を頂きました。

心理療法のひとつに、ヒプノセラピーがあります。退行催眠の中でも、転生論を前提とする前世療法は、前世、中間生、母胎内で体験した自身の物語を知ること、今現在抱えている心の傷を回復の方向へ導き、ひいては、人生の目的を思い出すことができます。

前世療法では、今、目の前にある困難の原因を、決して過去世のせいにするのではなく、今がどうあれ、今の自分を全受容できることに大きな意味があります。

全受容——。格好いい自分も、格好悪い自分も、ありのままの自分を受け止め、愛すること。この人生の主人公であり最高の演出家は、紛れもなく自分自身なのだ、生命の源泉から沸き出でる情熱と独創の物語を思う存分描き、実践することが、魂の成長を促すこととなるでしょう。

本書を手にしてくださった方々が、前世の物語をもっと身近に感じることで、一度しかない今の人生を、さらに豊かなものにする手がかりとして頂ければ幸いです。

二〇一六年十一月 ドレミファ鳥の鳴く館にて

おさない ひろこ

……  
序章

## 「直観」

当初、私は屋久島での暮らしを終え、大阪は中崎町の雑居ビルの一室で雑貨店を営んでいました。

ある日、自分の感覚を信頼して、雑貨がひしめく店内に、白いお姫様ベッドを搬入しました。乙女服のディスプレイに最適ですが、そのためではありません。

その年の立秋を迎える前日、私は約束をしていた、あるセラピストとお会いしました。当店でのヒプノセラピー個人セッションの開催をお願いする所存でした。

私がこの先生のヒプノセラピーを初めて受けた時から、数年経っていました。ということは、お会いするのは二度目です。たいへん唐突な申し出でも関わらず、ご快諾頂けました。

猫や天使、薔薇やキャンドル、乙女服、煌めく雑貨に囲まれた、良い香りのするお姫様ベッドで、ヒプノセラピーが受けられると口コミで噂は広まり、中崎町を訪れる乙女たちの、隠れ家的パワースポットが誕生したのです。

もとより、私は雑貨店の一角で、スピリチュアルタロットカウンセリングをしていました。新たにヒプノセラピストをお招きすることで、小さなセラピールームが始動しました。現在のセラピーサロンの原形です。

これは、そんな摩訶不思議空間から始まった、ヒプノセラピーオーガナイズの軌跡から生まれる、現在進行形の物語です。